

# 揺れやすさマップ

## 揺れやすさとは・・・

県がおこなった埼玉県地震被害想定調査による資料をもとに評価しています。表層地盤の影響を考慮して、想定地震が発生した場合の震度を予測しています。計算のための単位は250mメッシュで、「揺れやすさ」を震度でランク付けしています。

震度階級	人体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
震度5強	大半の人が、物につかまらないうる揺れを感じる。	棚にある食器類や書類の本で、落ちるものがある。テレビが白から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。
震度6弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものがある。ドアが開かなくなることがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
震度6強	立っていることができない。はわなう揺れを感じる。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
震度7	立っていることができない。飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたり、飛ばされることもある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。

## 地震ハザードマップとは？

地震ハザードマップとは、地震災害に関する情報などを市民の皆様へ提供することにより、日頃からの防災意識を高め、いざという時の被害を最小限にすることを目的とした地図です。今後起きると想定される地震の震度をもとに、それぞれの場所の最大の震度から「揺れやすさ」「建物全壊率危険度」を作成し、これらを「地震ハザードマップ」としています。入間市地震ハザードマップでは、埼玉県が平成19年度におこなった「埼玉県地震被害想定調査」における5つの想定地震（東京湾北部、茨城県南部、立川断層、深谷断層、綾瀬川断層）の内、入間市への影響が大きい地震として立川断層地震を想定しました。立川断層地震は活断層で発生する地震で、マグニチュード7.4、入間市における最大震度は6強（県内での最大震度は6強）を想定しています。

## 震度と揺れ等の状況(概要)

**0**

【震度0】人は揺れを感じない。

**1**

【震度1】屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。

**2**

【震度2】屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。

**3**

【震度3】屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。

**4**

【震度4】  
●ほとんどの人が驚く。  
●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。  
●座りの悪い物が、倒れることがある。

**5弱**

【震度5弱】  
●物につかまらないうる揺れを感じる。  
●棚にある食器類や本が落ちることがある。  
●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものも倒れることがある。

**5強**

【震度5強】  
●物につかまらないうる揺れを感じる。  
●棚にある食器類や本が落ちることがある。  
●固定していない家具が倒れることがある。  
●補強されていないブロック塀が崩れることがある。

**6弱**

【震度6弱】  
●立っていることが困難になる。  
●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。  
●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。  
●耐震性の低い木造建物は、互が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

**6強**

【震度6強】  
●はわなう揺れを感じる。飛ばされることもある。  
●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものがある。  
●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがある。  
●大きな地割れが生じたり、大規模な土すべりや山体の崩壊が発生することがある。

**7**

【震度7】  
●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。  
●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。  
●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものがある。

